

(1) 繊維

18/17 19/18 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%
: 天気図マーク; ◎ ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

- ・15年度後半から景気が全体的に回復に向かい、個人消費も持ち直してきたことなどから、17年度以降、繊維の国内需要は、衣料品分野で回復の兆しが続くと見られる。
- ・輸出は引き続き全体的に低調であるが、18年は対前年比で微増（出典：貿易統計）。

(2) 生産・設備稼働

- ・18年度に入ってから繊維工業全体の生産は前年度に引き続き前年度比マイナスが続いている。
- ・また、在庫についても引き続きマイナスとなっている（出典：繊維統計）。生産、出荷の減少は、不採算部門からの撤退、東アジアを中心とした生産体制のグローバル化によって国内生産比率が低下する傾向にあることを要因としている。
- ・在庫についても、引き続き生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。

(3) 企業収益

- ・大手合繊各社の決算状況は、原燃料高の影響を受けつつも、炭素繊維や高機能繊維などの産業資材用途が堅調で、増収増益を確保した社が目立った。
- ・大手紡績各社の決算状況は、非繊維事業の収益拡大により、増収増益を確保した社が多いが、繊維事業については原綿高やエネルギー費高騰などのコストアップ要因により総じて苦戦し、今期も低調であった。
- ・大手アパレル企業の決算状況は、各社の新ブランドの積極的な開発や基幹ブランドの復調により、全体として増収増益基調。

(4) 財務

- ・大半の企業において財務体質の強化を引き続き進めており、有利子負債の削減、不採算事業からの撤退などのコスト削減・生産効率の向上を目指した取り組みを行っている。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

(1) これまでの設備投資の推移

- ・繊維業界全体では、設備投資の実績は平成4年度以降減少または横ばい傾向が継続していたが、17年度実績額は、347.32億円（16-17共通回答企業30社）と対前年度比+1.8%となった。
- ・また、18年度実績見込み額は、445.07億円（17-18共通回答企業36社）、同13.5%増加の見込み。

(2) 平成19年度の設備投資計画

- ・ 19年度の設備投資計画額は、全体としては580.18億円（18-19共通回答企業36社）、同+36.0%と増加の見込み。
- ・ また、業種別に見ると、紡績は前年度比▲25.7%、染色整理は同▲42.0%、化学繊維製造業は同+23.8%、衣服等は同+33.1%と業種別に増減が分かれている
- ・ 目的別投資内訳を概観すると、19年度計画においては、全体的に、更新、維持・補修及び生産能力増強の割合が高い。
- ・ また、業種別に目的別投資内訳を見ると、化繊では更新、維持・補修に対する投資が約5割弱を占めており、衣服等では生産能力増強への投資が他業種と比べて高くなっている。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

- ・ 平成19年度（計画値）は前年度（見込み値）に比べ（18-19共通回答企業17社ベース）では、設備投資所要資金については、36.7%の増加となっている。

(2) 長期資金調達動向

- ・ 一方、資金調達方法については、19年度計画においても、借入金を減らし内部調達の範囲内で設備投資をする傾向が続いている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

